
■ 福島県駐車協会の紹介

福島県駐車協会 事務局長 上田幸男

福島県駐車協会は1962年(昭和37年)に、林 実氏を初代会長とし福島県内の駐車場業者によって都市交通の円滑化と公衆の利便に資することを目的とし設立されました。

1975年(昭和50年)当時には福島県内の福島市、郡山市、いわき市、会津若松市、及び白河市に計70社の会員があり、収容台数は2,750台となっております。

現在は、県北支部(福島市)に20社、郡山支部(郡山市)に18社の計38社の会員で構成されています。

地域の駐車場事業の現状

福島市を例にあげますと、2年前に福島駅東口前の老舗百貨店が閉店した事で人流が減少し、周辺の駐車場や商店の売上に影響を及ぼしております。現在、百貨店跡地を含めた一帯を地元の福島駅東口地区市街地再開発組合により、福島駅東口地区市街地再開発事業が進行中です。この事業は、民間が行う商業、業務、宿泊等に加え、公共施設(大ホール、イベント・展示ホール)機能の複合化により、商業や街なか居住等の都市機能の充実、賑わいの創出、交流人口の拡大などを図り、官民共創による「県都ふくしま」にふさわしい市街地再開発事業を目指しています。

郡山市においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、時間貸し駐車場では感染拡大前より利用者が減少しております。そのため時間貸しの一部を月極に転換された駐車場もあるようです。それでも、郡山駅前周辺には百貨店などの商業施設が多く存在しているので、福島駅周辺に比べると人流は多い状況です。

地域の紹介

・福島市について

福島市は、福島県の北部に位置し温泉とくだものが豊富で、古くは養蚕と阿武隈川の舟運で栄えた城下町です。

市内にはそれぞれの特徴を持った、飯坂・土湯・高湯の三温泉地があります。

飯坂温泉は「奥州三名湯」の一つに数えられ、松尾芭蕉が「奥の細道」の道中で立ち寄ったとされる古湯であり、「飯塚」として奥の細道に登場することでも有名です。共同浴場が9か所あり、レトロな街並みや建築物があります。

土湯温泉は、川沿いに宿が並び、温泉情緒を満喫できます。また、遠刈田、鳴子と並ぶ三大

こけし発祥地と言われており、現在もこけし工人が伝統を守りながら土湯こけしを作り上げています。

高湯温泉は、東北で初めて「源泉かけ流し宣言」を行い、「奥州三高湯(蔵王温泉、白布温泉)」の一つで、白濁の湯を楽しむことができます。

福島市は「くだもの王国」と呼ばれ、初夏から冬にかけて様々な果物が実りの時期を迎え、新鮮な果物狩りも楽しめます。福島市の北西部にはフルーツラインやピーチラインと呼ばれる道路があります。その名の通りさくらんぼ、もも、なし、ぶどう、りんごなどの観光果樹園が道路沿いに立ち並び、初夏から秋にかけて、もぎたての味が楽しめる果物狩りができます。

また、福島駅東口には、福島市出身で連続テレビ小説「エール」のモデルとなった日本を代表する作曲家・古関裕而のモニュメントがあり、来訪者をお迎えます。



共同浴場鯖湖湯



古関裕而モニュメント

・郡山市について

郡山市は、福島県の中央に位置し、首都圏から東北新幹線で約80分というアクセスの良さに加え、鉄道や東北・磐越両自動車道が縦横に交差するなど、交通の利便性が良いことから「陸の港」とも称され、「人」「モノ」「情報」が集まる中核市、そして経済県都として成長を続けています。

この郡山市の発展の源となったのが、日本三大疏水の1つに数えられる「安積疏水」で、水利が悪く不毛の大地だった安積原野に猪苗代湖から水を引いた大事業でした。疏水とは灌漑や舟運のために、新たに土地を切り開いて水路を設け、通水させることをいいます。この「安積疏水」の開削は、明治12年から始まった国直轄の農業水利事業の第一号でした。



郡山駅西口ビッグアイ

農業水利として行われた「安積疏水」と安積開拓により、安積原野は猪苗代湖の清らかな水

で潤い、肥沃な大地に生まれ変わり、現在では、全国的にも最も美味しいお米がとれる産地の1つにまで変貌を遂げました。また、農業以外にも「安積疏水」は電力の供給源(日本で最も早い時期の長距離水力発電所)として利用され、製糸業の発展をもたらすとともに、その後の化学工場の進出をもたらし、現在「経済県都」と呼ばれる郡山の礎をつくりました。

また、明治から戦前にかけて急激に工業都市として発展した郡山市は、敗戦後市民による美術や演劇、音楽などの団体が立ち上げられ、人々は音楽に表現の自由を求めています。

音楽による戦災復興、これが郡山市民の心の拠り所となり、東北のウィーンと呼ばれるほど、さまざまな音楽会が開かれるなど、2008年に音楽都市を宣言し、「楽都郡山」として多くの人々を魅了する音楽が鳴り続けています。



安積疏水「麓山の滝」モニュメント

キャラクターの紹介

・福島市観光PRキャラクター「ももりん」

平成8年4月に誕生しました。

福島市の西側に連なる吾妻連峰、その中のひとつ吾妻小富士に積もった雪が、春が近づくにつれてうさぎの形の残雪として現れることから、「種まきうさぎ」または「雪うさぎ」と呼ばれていることに由来しています。ふくしまのくだものをイメージしながら、かわいらしい愛称の「ももりん」が選ばれました。



福島市観光PRキャラクター「ももりん」

・郡山市イメージキャラクター「がくとくん」

平成22年3月20日に誕生しました。

帽子には、音楽都市“楽都”郡山を表す音符をデザインし、また、郡山産米「あさか舞」に代表される米どころを表す稲穂をワンポイントに、郡山の豊かな自然を表すグリーンの洋服を身にまとった可愛らしいキャラクターです。



郡山市イメージキャラクター「がくとくん」